おもひの木プロジェクト

活動報告書

（201803～201902）

福島県立新地高等学校

発刊にあたり

本校が「おもひの木」（沙羅の木）を植樹してから２年が経過しました。３年目の春を迎えようとしています。今年も、本校生徒の健やかな成長を見守り、亡くなられた方々を慈しむように、葉を茂らせ、花を咲かせ、枝を伸ばしてくれることと思います。「おもひの木プロジェクト」活動の一つである毎月１１日に行う月命日の月例会では、東日本大震災で亡くなられた方々の御霊に対し哀悼の意の表明、および、いつ来るかわからない津波から「地域の人々の命を守る」ことを心に刻む時間としています。

震災の記憶は、現代では映像や文字での記録が残るでしょうが、埋もれてしまっては意味がありません。やはり、人々がその記憶を語り継ぐことが大切だと感じています。本校はその活動を推進しようと頑張っています。よろしくお願いします。

福島県立新地高等学校長　髙島　秀一

私たちの想い

福島県立新地高等学校では、2011年に発生した東日本大震災にて、在校生1名、その10日前に卒業式を終えた卒業生8名が津波の犠牲となりました。

私たちは、震災で亡くなられた多くの方々を追悼するため、2017年3月11日（土）に「偲ぶ会　東日本大震災追悼・祈念植樹式」を行い、本校の中庭に沙羅の木を植え、「おもひの木」と名付けました。私たちは、震災からの教訓を学び、災害から大切な命を守ることを目的に、被災地の高校生たちが繋がることで、震災を知らない後世へと伝えていくことを目指しています。

おもひの木プロジェクト

2017年3月11日「おもひの木」植樹式を実施しました。校内の中庭にご遺族や当時の恩師、同級生、同窓会会員、教職員が参列して式を執り行いました。式では黙とう後、沙羅の木の前で、犠牲となった生徒のため9本のろうそくを灯し、献花しました。

この日以降、月命日のたびに、おもひの木へ黙とうを捧げる活動と、地域清掃を続けています。また、地域の方々から震災当時の話をうかがい、自分たちの被災経験などとともに震災を後世に伝える、語り部活動などを実施しています。

生徒会の想い

前生徒会長
佐藤　真都香

おもひの木プロジェクトも、始まって2年が経ちました。この活動を通して、辛かった分、自分も成長もできたと思います。ときには、活動の意義を見失ってしまうこともありました。しかし、生徒会役員で協力しつつ、プロジェクトを進めていけたのではないかと思います。

日常の中で、震災について深く考える機会は、そう多くはないと思います。しかし、プロジェクトで他校の生徒とかかわる中で、考えを深めることができたのではないかと思います。

今後も、おもひの木プロジェクトは続いていきます。先輩たちが行ってきた活動と、私たちが育んできた活動とでは、内容が違ってきているかもしれません。しかし、私たちの代では、私たちなりの活動ができたと思います。私たちの思いが、今年度の活動に生かされたのではないでしょうか。後輩たちも、私たちと同じ活動をする必要はありません。自分たちで対話を重ね、自分たちの考える「おもひの木」の活動を、していってほしいと思います。

生徒会長
佐藤　佑香

私たち新地高校生は、毎月、東日本大震災の月命日である11日前後に、亡くなった9名の先輩を追悼するため、おもひの木の前で9本のろうそくに火をともし、黙とうをささげています。その後、部活動同士で協力しあい、月当番を決めて、地下道清掃や駅前のトイレ清掃を行っています。おもひの木プロジェクトでは、亡くなられられた先輩方や、新地町で犠牲になった方への思いを胸に、活動をつづけています。

被災した地域への視察や、他校との交流活動も行っています。現在の復興状況をお互いに確認し合ったり、活動の内容を話し合ったりしています。少しずつではありますが、この活動に関心を持ち、積極的に参加する生徒が増えてきています。私たちは、一人でも多くの生徒が活動に参加できるように、努力していきたいと思います。

今後、同じような災害が起こった時、東日本大震災の記憶がしっかりと後世へ伝えられていれば、一人でも多くの命が救えるはずです。私たちが、震災の記憶を受け継ぎ、伝え続けることで、社会に貢献できるよう、おもひの木プロジェクトを大切に育てていきたいと思います。

活動実績

3月13日、校内行事「東日本大震災から学び、これからを考える」を実施しました。石巻市の語り部の方からお話を伺った後、志津川高校の生徒たちとグループディスカッションを行いました。生徒たちは、模造紙に描いた「おもひの木」に、思いをたくした木の葉の付箋を張り付けていきました。（生徒たちの想いはp.8～11に掲載）

3月17～19日、徳島県での語り部活動および津波石碑調査を実施しました。徳島文理中学校・高等学校、美波町由岐公民館、徳島大学で、総勢260名の方々を前に、新地高校生が津波被災体験を語りました。今後の巨大地震・大津波対策が急がれる南海トラフ地域ということもあり、徳島の方々からは具体的な質問が相次ぎました。生徒は、自分の経験が役立てばと、一つひとつ丁寧に答えていました。（中学生の感想はp.15に掲載）

8月21～20日、生徒会と有志の生徒7名が被災地を訪問し、ＮＰＯの方からお話を伺いました。宮城県志津川町では、津波被災後の戸倉中学校を改装した公民館で、志津川高校のＯＢと「キッズドア」の方と、風化防止に関するディスカッションを行いました。また、気仙沼市で「底上げ」の方と、岩手県陸前高田市では「桜ライン311」の方にお話を伺い、震災の伝承活動について学びました。（参加生徒の感想は次ページに掲載）

9月29日、福島県文化財センター白河館（まほろん）で「南海トラフ地震に向けて――福島の私たちが今、できることとは」という題で活動発表を行いました。同館では、7月22日から9月30日まで、新地町の大津波伝承と語り部活動に関するパネル展示をしていただきました。来館者の方々の思いは、「おもひの木」の木の葉の付箋を通して、私たちに伝わってきました。
（来館者の方々の想いはp.13～14に掲載）

8月～11月にかけて、新地町で活動を行いました。8月4日の「新地町やるしかねぇべ祭」、10月21日の「新地高校公開文化祭」、11月11日の「新地町産業復興祭」では、おもひの木プロジェクトのブースを設け、活動内容の発表や解説をしました。また、「おもひの木エコバッグ」の販売も行いました。町の人たちから、活動への励ましの言葉や、「おもひの木」への思いもいただきました。
（町の方々の想いはp.12に掲載）

12月26日、いわき海星高校に生徒会と有志の生徒たちが訪問し、交流を行いました。昨年に引きつづき2回目となります。新地高校生は、おもひの木の活動紹介や、生徒3名による震災時の語り部活動を行いました。いわき海星高校では、震災当時、在校生2名が津波の犠牲になりました。亡くなった友人の鎮魂のためにと「チームじゃんがら」が結成され、今回も、念仏踊りを披露していただきました。室内に太鼓と鐘の音、いわき海星高校生の歌声が響き、鎮魂の思いに胸をうたれました。

＊宮城県・岩手県の津波被災地を訪れた生徒の感想（一部抜粋）＊

・新地町は復興のため、活気を取り戻すため、以前にはなかった建物を建て、町は明るくなっています。しかしそれだけでは、震災の記憶が風化し、後世に形として残せないような気がします。そこで、形に残すことが大事だと気が付きました。（１年女子）

・一番学んだことは命の大切さです。命は一つしかないので、今を生きていけることに感謝して、少しでも他人の力になれることがあれば積極的に取り組みたいと思いました。そして、前向きに努力し、人から求められる人材になれるように頑張りたいと思います。（１年女子）

・美術部が制作している「おもひの木」エコバッグを、話してくださった講師の方々に渡した際に、お礼の言葉を言っていただいてうれしかったです。これからエコバッグを作るときは、これまで以上に１枚１枚心を込めて、作っていきたいです。（１年女子）

・この震災の出来事をつらい思い出として、忘れかけようとしている人もいるだろう。一方、今後この規模の災害が起こるかもしれないので、非常時のことを考え、防災訓練や対策、避難用の「地図」を確認しておくことが必要であると思います。（１年男子）

語り部たちの想い

２年
小賀坂　美咲

私は1年生の時から、語り部活動を行っています。自分にできるのか、不安になるときもありましたが、当時の江尻校長先生から、「泣いてもいい、言葉につまってもいい。聞き手の人たちは、それでわかってくれる。被災地の子どもは、泣いて、乗り越えて、強くなるんだ」といわれ、勇気が出ました。活動の中で、多くの方が真剣に、私の話に耳を傾けてくださいました。そして、活動をとおして、津波被災者による語り部活動が、どんなに意義があることかも、教えていただきました。

震災当時、私は小学3年生で、何もできませんでした。ですが、高校生になった今、できることはたくさんあります。昨年は、徳島県や白河市、いわき市で語り部活動を行いました。その縁で、昨年10月、徳島大学の先生が新地町に来て、津波が到達した地点の正確な高さを測定してくださいました。大戸浜地区では、標高13．5ｍの場所まで、津波やがれきが到達したことがわかりました。その高さより高い場所に逃げてください、という言葉を、津波石碑にきざみ、後世の人に伝えて行きたいです。現在、津波石碑の建立にむけて、地域の方々と相談をしているところです。先日、地域の方から、津波が到達した場所に津波石碑を建ててもいいよ、との許可をいただきました。これから、石碑のデザインや碑文を考えていこうと思います。また、おもひの木プロジェクトの活動を伝える冊子やマンガなどをつくれたらいいなと考えています。

2年
武澤　愛華

先日、統廃合で新地高校がなくなってしまう、という話を聞きました。一昨年、植樹したばかりの「おもひの木」はどうなるの？　新地高校がなくなったら、月命日の月例会もなくなってしまうの？　と心配になりました。

私は、語り部活動を通じて、被災経験者だからこそ話せることがある、ということに気づきました。誰かと対話することで、震災の記憶を受け継ぎ、何も知らない世代に伝えることができるのです。昨年は、宮城県立志津川高校で、高校生の経験談を聞くことができました。私はディスカッションが得意ではなかったのですが、志津川高校の上級生の方が気さくに声をかけてくださり、話をまとめてくれました。この経験を、今後に活かして行きたいです。

南海トラフなど、今後の地震が予想される地域の方々には、震災を他人事だと思わず、非常袋を用意したり、逃げる準備や体制をとっておいてほしいと伝えたいです。津波は、必ず来ます。私は、新地小学校３年の時の体育の授業中に震災にあい、みんなと一緒に高台の尚英中学校に逃げました。釣師地区の自宅が津波で流され、千葉や郡山に避難し、小学4年生の終わりごろ、新地町に戻りました。新地町で育ったので、地域の人たちの期待には応えたいです。地域の方たちの、「応援してるよ。がんばってね！」という声が、とてもうれしいです。地元に、津波を後世に伝える石碑を建てたいと思っています。私は、この活動を通じて、自信をつけることができました。112年の歴史がある新地高校で、これからも、語り部活動を続けていきます。

１年
斎藤　愛

私は、先輩方と一緒に、他の高校生や一般の方々への語り部活動をしています。この活動に参加できて、よかったと思っています。震災から８年が経ち、記憶の風化が進んでいます。今、私たちが、震災の被害が少なかった地域で自分の体験を話すことで、災害に対する関心が今よりも高まってほしいです。この活動が、無限の樹形図のように、次の世代、そのまた次の世代へと継承されればいいなと思います。

この地域では、東日本大震災の時、多くの人が津波の犠牲となりました。震災を経験した者として、これから起きる災害で犠牲者が一人でも少なくなるように、この活動を続けていきたいです。私や家族の経験から伝えられることは少ないとは思いますが、聞いてくださった方々に私の思いが届くようにがんばっていきたいと思います。

新地高校おもひの木プロジェクト
「おもひの木」へ寄せられた、それぞれの「おもい」

2018（平成30）年3月13日　校内行事「東日本大震災から学び、これからを考える」で記した新地高校生たちのおもい

１－Ａ

・おもひの木プロジェクトで震災の事を忘れないようにしたい。
・おもひの木の活動をがんばる。できることをやる。
・おもひの木の成長を心より願っています。
・震災は大切な人や家族や物などを奪っていく。とても悲しくなるから、今を大事にする。
・後世に伝えていき大きな被害がでないようになってほしいです。
・一日一日を大切に生きていこう。
・おもひの木プロジェクトの活動はすばらしいので、もっと広まってほしいと思います。
・おもひの木プロジェクトをこれからも伝統として続けていきたい。
・たくさんの子どもたちなどが亡くなったのは、とても残念です。
・これからも復興していけたらいいなと思いました。
・経験したことを忘れず、後世へ伝え残していけるように行動に表していけたらいいなと思いました。
・今後も復興していけたらいいと思います。
・今日、震災についてたくさんのことを知ることができました。津波を実際に見たわけではないので、動画や震災後の写真を見て、本当のおそろしさを感じました。
・震災について改めて考えることができました。わたしは今、語り部をしているので、これから後世に伝えたいです。
・他校からの話や映像を見たりして、７年経った今でも怖いし、忘れてはいけないと思いました。
・あらためて、津波は怖いと実感しました。震災を経験し、復興が大事だなと思いました。
・改めて、自然災害は怖いなと思いました。
・あの日の震災を忘れずに、これからもしっかり行動に生かせるようにしたいと思います。
・当時の事をビデオなどを通して伝えていけたら良いと思いました。
・震災の大変さを知っているからこそ、これからにつながるように伝えたい。改めて忘れないことは大切だなと思った。
・今回のことを復興に生かせたらいいなと思います。
・津波の事を忘れないように伝えていきたい。
・たくさんの人が亡くなった。その人たちの分も、一日一日を大切に暮らす。
・復興に向けて頑張ろう。

１－Ｂ

・未来につなげるために今を頑張ろう。
・実現できそうな事をクラスのメンバーで話すことはなかなかないので、今日はすごくいい機会になりました。地理歴史班の活動にも活かしたい。
・自分１人では思いつかない案がでて、これも自由な発言と、アイデアの量をふやしたからこそでた案なので、楽しかったです。
・津波はおそろしい。
・人間関係を大切に。助け合いを大事に。
・積極的に復興のボランティアに参加したい。
・復興に向けて頑張ろう。
・形だけや表面だけの問題ではなく、未来を見つめ、残す復興になってほしい。
・応援ありがとう。
・自分ができそうなことがたくさんあった。震災を知らない人たちに伝えていけたらいいと思う。昔のことを思い出せた。
・震災の恐怖がよみがえった。
・津波の時に判断力はかかせないと思った。
・震災を知らない人に向けての活動に力を入れていきたいと思った。
・あまり震災について考える機会がなかったので良かったです。
・一日一日を大切に生きよう。
・津波について語り部さんがきてお話をしていただき、津波に対する気持ちが更に強くなったと思います。
・震災の体験を後世に伝える事は難しいと思うけど、これからも頑張って行こう！！
・津波はとてもおそろしいものだと、あらためて実感した。
・３．１１のことを忘れずに生きて行こうと思った。
・もう津波はこないでほしいと思った。
・自分たちで考えてアイデアを出す事は難しかったけれど、実際に取り組んでいきたい。
・自分も震災で体験したことを後世に伝えていきたいと思った。
・これからの人、震災を経験してない人にもわかりやすいように、あまりお金のかからないように「これからの人へのメッセージ」みたいな企画を行っていけたらなと思います。
・震災のことを教訓として忘れない。また命は大切なものです。

２－Ａ

・まじめに、震災について考えられるように、身近なことから一つ一つ大切なことだと思える人間になれれば、大事な出来事も自分のことのように考えられると思いました。
・いろいろな意見やアイデアが聞けて、これからに生かしてくれると思います。震災を知らない人たちへ伝えられるといいと思います。
・忘れてはいけないとあらためて思った。
・つらい記憶だと思うけど、乗り越えるために、私たちがしてきたことと一緒に次の世代に伝えることがなによりも大切なのではと思いました。
・今後は、亡くなった人たちの分も強く生きようと思いました。後世に震災の事を伝えていこうと思います。
・みんな案を出していて、いい意見がいっぱいあった。
・震災の怖さ、対応を後世に残していくための活動の形はたくさんあるんだと思い、良い経験だった。
・命の大切さを知った。震災は忘れられないものだと思った。
・語ることはむずかしいけれど、紙に書いたりすると意外と簡単に言葉が出てきた。
・改めて震災のことを思い出しました。もし、またこのようなことがあった時は、次は私たちが支援する番になります。
・みんないい案を出して話しあいを進めることができた。
・復興に関して、いろいろな考えを持っている人がいて、実際にそれを聞けて、今後自分も復興に関して考えていきたいと思いました。
・みんなの話がまとめられて良かった。今後、役に立てるようにしたい。
・これからも命を大切にしていこうと思いました。
・震災のことを今の人たちに伝える。
・みんなの意見がたくさん出たので、良いと思いました。
・早く復興できるように自分たちが何をするべきかを考えて行動していきたいと思います。
・震災から７年たった今でも亡くなる人はたくさんいる。悲しい思いはあるけど、未来に向かってこれから先も歩み続けていきたいです。
・今日１日で、いろいろな事を学べてよかった。今日学んだことを生かして生活したい。
・今、私たちにできることは何かを考え、実行していきたいと思った。
・貴重な時間をありがとうございました。
・今日は震災について考える日でした。特に未来に残すために自分ができることは考えられなかったけど、これからの復興のために、地域で考えなければならないと思った。
・津波や地震で亡くなった人のご遺族の方々の、これからの人生が、明るくそして楽しいものになりますように。
・震災について知って、他の人たちと協力していくことが大切だと思いました。
・震災はたくさんの人々の命をうばってしまう。助かった人々は、貴重な命を大切にしなければと思った。
・震災のことを忘れず、自分でもできることをしていきたい。
・災害対策を、暮らしを守るため、しっかり行いたい。
・震災を経験して、命の大切さがよく分かった時間になった。
・たくさんの人とたくさんしゃべり、たくさん交流できたことを光栄に思いました。コミュニケーション能力が高まったと思います。
・自分も震災を経験したからこそ伝えられることがたくさんあると思うから少しでも多くの人に伝えて震災のことを知ってほしい。

２－Ｂ

・風化させないように頑張る。
・今回のようなことを行っていけば、震災を知らない人もいなくなると思うし、そのことについても深く知ることができる。
・終わってしまったことはもう戻せないけど、これからのことにつなげていけると思うので、それを忘れないようにしていきたいです。
・一日一日を前向きに頑張る。
・復興に向けて頑張ろう！！
・震災は忘れてはいけないと思った。忘れないためにも、今日話し合ったことをこれから伝えていけたらいいと思いました。
・震災のことは忘れてはいけないし、伝えていかなくてはいけない。
・被災地の高校生たちがこれからも震災を知らない後世の人たちへ伝えていく。
・かなり具体的な話を聞いたことによって、忘れかけていたことを思い出せたし、ほんとに大変だったんだなという気持ちになった。
・復興に向けて、一日一日をがんばろう。
・一日一日を大切に生きる。
・これからの生活の中で、忘れずに頑張る。
・震災からの復興が進んでいると思った。
・あれから復興が進んでいると思った。
・復興が進んでいるところと、まだまだ進んでいないところがあるので、そこを頑張ってほしい。
・震災の事を忘れてはいけないと思った。あらためて津波の怖さを知ることができた。
・震災を忘れず、これからも伝えることが大切だと思った。
・震災を伝えることは難しいけど、決して諦めずに頑張っていきたい。たくさんの人に伝えたい（３．１１）
・被災の事を、あまり知らない人のために、当時の写真や、話を通して知ってもらえたらいいなと思いました。そして、もっと興味をもってもらいたいと思います。
・復興できるようにがんばろう。
・復興が進んだと思う。
・語り継いでいくことが大切だと思うので、私たちがこの思いを語り継いでいく。
・後世に語り継ぐ。
・風化させないためにも、今、できることを徐々に行っていかないといけないと思った。
・震災の事は決して忘れてはいけないと思った。次の世代へと語り継いでいきたい。
・震災ということを自分なりに考えて、相手に伝えるのは難しいが、忘れないためにも考えることが必要。
・私たちが語り継いでいく。
・みんなとこんなにまじめに話す機会がないから新鮮でした。いい感じの意見が出たから、良かった。
・今回のディスカッションでみんなが震災についてどう考えているのかが理解できました。今回、出た意見を生かしてこれからの活動にいかしていきたいです。

○新地町やるしかねぇべ祭・新地高校公開文化祭
・新地町復興産業祭に寄せられたおもい○

・元気でいますか？　家族みんな元気だよ。夢でもいいからあいたい！！
・復興に向けてがんばりましょう。復興の次のステージへ！
・これまでのＯＭＯＩを未来につなげよう。
・復興はまだ道半ば。最後のやるしかねぇべ祭を盛り上げていこう！！
・まだ復興していない地域も復興できるように頑張りましょう！！
・新地高のみなさんの頑張りを陰ながら応援しています！！
・みんなで力を合わせて復興させましょう！！
・経験を無駄にせず、これからの命を助ける活動を精一杯続けてください！　新地高校生の活躍を願っています。
・後世の人たちがこのような大震災にあっても津波の被害にあわないといいと思います。
・どんどん楽しい町になりますように。
・みんなが毎日笑顔で過ごせますように。
・戦争の歴史は語り続けるのになぜ震災の歴史は語り継がないのか。同じ辛いことなので若い方にも語り続けるといい。
・今後もこの活動をつづけてほしい。
・私たちの活動で助かる命があるのなら、私は活動の幅をひろげてがんばりたい。
・この町で子育てがんばるぞ！　新地町をすてきな町に！！
・津波は家も人も流すが、想い出も流すので辛いです。想い出の品が残らないのは、残された身からすると、辛い現実です。
・子どもたちが無事で、孫がうまれた。めでたし。
・形あるものはすべて失いました。でも、新しい人たちとの出会いもありました。
・おもひの木プロジェクト、ごくろうさまです。これからもがんばってください。
・新地町が平和な町でいられますように。
・ぜひ、ぜひこの震災を忘れないように、石碑を作ってほしいと思います。
・たくさんの大事な人を亡くしました。でも何故か、いつも近くに感じ続けています。これからも、きっと。またね。
・新地町を大切にしてがんばろう。
・ひとりひとりのあたたかな心・気持ちでこの新地がこれからも明るい町になれるよう願います。私たちが住んでいるこの新地は、海も山もとてもすばらしいところだと思います。どうぞ、その自然が豊かな町を大切に想ってくれる人が、たくさんの笑顔でこの町で生活していけますように。
・おもひの木プロジェクトの活動を通して、後世まで震災のことを残せればいいなと思います。
・私、年寄りですので皆さんのお世話になりっぱなしです。これからも元気でいたいのでよろしくお願いします。
・私の実家では、ひいおばあちゃんの話をすることができません。それは、震災が起きたのと同時に老人ホームにいたひいおばあちゃんが亡くなってしまったことで、ひいおばあちゃんの話をすると、震災のことを思い出すからやめろといわれたからです。しかし、テレビで新地高さんの生徒が震災のことについて語っていた時、私と同じような辛い思いをしている人が他にもたくさんいたんだと思いました。復興のために頑張っている新地高さんを心から応援しています。
・新地高で３年間学んだ人たちのことを、これからも忘れてはいけないなと思います。私も新地高の９人にそれぞれの思い出があります。その証を残していきたいです。

○福島県文化財センター白河館（まほろん）のおもひの木へ寄せられたおもい○

・私のおばあちゃんたちが、福島県出身で、亡くなっていないけど大変だったそうです。少しでも多くの人が助かりますように。
・ずっと昔に津波があった、その証が残っていたのに、現代にまであまり活用されていなかったのだろうと感じました。この調査がもっと広まり、今後に活かされたら良いのにと思いますし、3.11の震災・津波の経験が後世に残ると良いと思います。良い研究だったと思います。
・最近、震災が多く怖いですね。みんなが幸せな未来になりますように。
・失われた命を決して無駄にしないという強く熱く尊い想いが伝わってきました。ずっとずっと未来までこの「おもひ」が伝わることを願います。すばらしい研究を見せてくださり、ありがとうございました。
・おもひの木プロジェクト、すばらしい企画です。何より実行に移したのがすばらしい！
・日常の生活の中で、震災の記憶が日々風化していくのを感じます。その中で、このプロジェクトが引き継がれ後世に震災の記憶が語り継がれていくことを応援します。（Ｙ．Ｙ）
・高校生のみなさんの研究、本当にすごいと思いました。そして、震災の記憶を、風化させないという強い意志を感じました。私は震災の時、隣県にいました。あの恐怖の時間は忘れられません。皆さんは、あれ以上の強いゆれと恐怖を感じたのでしょう。それに負けず、残していこうという活動を応援します。
・「心」を大切に！！　そして、限りある「心」も、もっと大切に！！！（りゅうのすけ）
・ひどい目にあった人たちへ。安らかに。（ＹＹＡＲ．Ｙ）
・ありがとうございました。（ＹＹＡＲ．Ａ）
・あのようなしんさいを忘れることはないと思います。（ＹＹＡＲ．Ｙ）
・もうあのようなしんさいがおこってほしくない。そう思えました。（ＹＹＡＲ．Ｒ）
・命を大切にし、大震災のことを心の中にしまっておく。
・震災の記録を未来につなげる、すばらしい成果です。
・昨今の自然災害が続くのを見ていると、次に起きた時の教訓にしていかなければならないと思いました。皆さんの活動のように、後世に伝えることも大事だと思います。
・地蔵森や小鯨など、新地町で仕事をしていた時のことを思い出しました。（笠井）
・小学校時代に被災し、高校生になってその思いを研究にまで昇華させたというのは、すばらしいと思いました。力強い碑ができてほしいです！！

・高校生たちの研究活動を見て、私自身も自分の研究を頑張ろうと思いました！　とてもよい刺激になりました！　どうもありがとう！！
・お互いにも手をつなぐ「間」をあけよう。
・二度と震災のような悲しいことを繰り返さないためにも、重要な取り組みだと思います。未来につなげられるような活動、がんばってください。

・災害の記憶を後世に伝えることはとても難しいことですが、若い世代の思いが必ず未来に伝わると信じます。
・とても怖い思いをして、つらかったと思います。若い力が動いて前を向いて生きること、がんばりましょう。
・災害は忘れた頃にやってくる。こうした伝承記録は昔の人の貴重な体験談です。忘れ去られないように残すことが大切です。
・過去の災害の記憶をきちんと後世につなぐための高校生の取り組み、すばらしいと思います。
・私が震災を経験した時は、中学校１年生で、まだ右も左もわからないガキでした。高校の皆さんが、震災の記憶を語り継ぐために活動していて、感激しました。
・震災を語り継ぎ後世に残す。それが、震災を体験した私たちの使命です。一人でも多く助かるように。
・今、大阪、北海道で同じような苦しい状況になっていて、それに対して福島の人々が様々なところで支援をしているので日本の中でそういった経験をした人同士のつながりや支え合いができていければいいなと思います。
・私たちは少し近道をしただけだ。
・日常に慣れてしまうと、あんなに辛かったことを忘れそうになります。皆さんの活動により、記憶が風化せず、次の世代につながることを願います。
・忘れることのできない凄惨な体験を、のちの人々の為に、目をそむけず伝えていくことは、経験者の私たちだからこそ、していかなければならないと改めて感じました。高校生のみなさん、お疲れ様でした。
・皆さんの思いが届きます。
・過去、大津波の被害にあった日本。しかしあまりにも昔のことで伝承も薄れ、大震災の歴史そのものが否定されかけていた。そして起こった、東日本大震災。歴史を振り返り、その時の経験を語り継ぎ、後世にしっかりと伝えていくこと、受け継いでいく、現代の私たちも未来の人達の為に、しっかりと語り継いでいかなければならないこと、その大切さを、新地高校の皆さんに教えていただきました。この素晴らしい研究の成果が、この先もずっと伝わりますように。皆様の素晴らしい研究に感謝！！
・世界平和。
・津波研究、おつかれさま。５００年後にも、この記録が役に立つように！！
・すばらしいことだ！！
・研究の成果が将来の防災につながりますよう願います。
・先日、岩手県釜石市と陸前高田市に行ってきました。どちらも「途半ば」でした。それでも、津波の記録を残そうと頑張っています。「点」から「線」へ、そして「面」として忘れずいたいものです。
・震災に対する思いの強さを感じました。自分なりに震災で感じたこと、学んだことを、語り部の一員として未来に伝えていくことが大切で、自分にできることだと思いました。
・「まほろん」の展示で、福島県の高校生が賞を取るような活動をしていることを初めて知りました。人は忘れゆく生き物だと思います。また、後世の人々は経験していないため、どれだけ大変だったのか恐ろしかったのかわからない人もいます。是非、語り継いで、１００年後、２００年後まで大自然の恐ろしさ、共存していくために必要なことを伝えていけたらと思いました。ありがとう。
・高校生たちの活動を見て、ぼくはすごいなと思います。

〇新地高校生の語り部活動に対する、徳島県の中学生の感想（抜粋）〇

・私の家族は、まだ、震災時の集合場所などの話し合いができていません。今回、聞いたことを親に話し、どうするか話し合います。

・今まで地震が怖すぎて、震災の映像を一切見られませんでした。しかし、小賀坂さんの話を聞いて、向き合わなければと思いました。

・講演を聞いた後、家族と一緒に避難場所を確認しました。「自分の命は自分で守る」、この言葉を大切にしていきたい。

・とても貴重な体験でした。小賀坂さんが震災のことをぼくらに話してくださったことで、何人かの命が救われるだろうと思います。

・四国テレビの「フォーカス徳島」で、「海は嫌いですか？」という質問に対して、小賀坂さんは「好きです」と答えていたのがとても印象に残りました。「津波は自然のものだから、仕方がない。その自然と人間は生活していかなくてはいけないから、きちんと対策することが大切だ」という言葉も心に残りました。

・もっといろんな人に、実際の話を伝えていってほしいと思います。

・四国にもいずれ大きな地震がくる。まずは生きのびなければならない。そして、生きのびたら、その時の記録を後世に残さなくてはいけない。自分たちにも、何かできることはあるはずだ。地震に強い国をつくりたい。

・前回の「非常食を食べる」学習で感じ得たものとは大きく異なるものでした。震災後の心理的問題にも対処できるようにすることが必要だと思いました。

・職員室で、他の先生と震災の話ができないと聞いて驚きました。

・去年、授業中に震度2の地震が起きたとき、校長先生の放送で津波の心配がないとわかったけれど、鉛筆を持つ手が震えて自分が思っているよりもあせっていることに気づきました。友達は、泣いていました。小学校3年生で震災を経験した小賀坂さんの話は、今までの防災の授業の中で、一番心に残っています。

「おもひの木プロジェクト」コーナー

校内の職員玄関ホールには、「おもひの木プロジェクト」コーナーを設置し、これまで交流してきた高校生や一般の方々など、多くの方からいただいた一言メッセージを、おもひの木の「葉」になぞらえて提示しています。

「おもひの木プロジェクト」へのご寄付のお願い

本プロジェクトは、様々なご支援やご寄付を頂き、活動を継続しております。本プロジェクトの理念に賛同していただけた皆様には、ご寄付を通じて私たちの活動をサポートいただければ幸いです。集まった寄付金は「おもひの木プロジェクト」の活動資金として、おもにプロジェクトの運営費（生徒達の旅費・宿泊費、備品購入等）に使用させていただきます。ご支援・ご協力のほど、よろしくお願い致します。

＜ご寄付先＞
相双五城信用組合　新地支店　普通1037720
新地高校生徒会おもひの木教育振興基金

2019年3月　発行
編集・発行　福島県立新地高等学校
〒979-2703　福島県相馬郡新地町小川貝塚西13-1
TEL 0244-62-2009 ／FAX 0244-62-5021
https://shinchi-h.fcs.ed.jp/